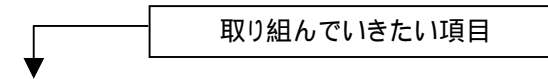


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	「入居者の尊厳」や「地域との交流」などわかりやすい言葉で明確に表現している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	何かあった時にすぐに思い出し、理念にそった介護ができるよう、毎朝のミーティング時に全職員で唱えている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	契約書や重要事項説明書に記載しており、同意を得て入居していただいている。また、来訪者の目に付きやすい玄関と、職員が目にする事務所、他数カ所に掲示している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	納涼祭には大勢の地域の方々にも参加していただき、毎年の恒例行事となっている。畑作業時や散歩の時などはよく声をかけていただいている。		今年度初めて町内会主催の自主防災訓練に参加させていただきあらためて日頃からの地域住民とのコミュニケーションの大切さを実感した。今後も続けていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	町内会に入っており、地域の連絡網にも入っている。回覧板やお知らせ、会報等数部いただけるようになっており、職員、入居者がゆっくりと目を通せるよう配慮していただいている。		回覧板等のチェックをし、職員や入居者が参加できそうなイベントには積極的に参加してコミュニケーションを図ってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ボランティアや見学等積極的に受け入れている。また、ホームヘルパー養成研修、高等学校の実習を受け入れている。</p>		<p>職員募集の求人広告を見て初めてグループホームの存在を知ったという高齢者の方から相談の電話を受けたことがあった。すぐすぐ入居ということではないが、近所にこういった施設があること知り安心したとのこと。もっともっと積極的にアピールしていきたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第一回、第二回の調査報告書を事務所に掲示し、いつでも目にすることができるようにしている。また、指摘箇所は速やかに改善に取り組んだ。指摘されなかった項目についても常に検討が必要であるため、事あるごとに確認し合うようにしている。しかし、日々介護に追われると原点を振り返ることを忘れがちである。</p>		<p>苦情やヒヤリハットが挙がらないとついつい現状維持の介護となってしまう、定期的な振り返りを忘れがちである。運営推進会議等で、外からの目でホームを見ていただき、積極的な意見をいただきながら質の向上に努めていく。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度二回の運営推進会議を開催した。ご家族代表、町内会長、民生児童委員、介護用品取扱業者など様々な分野より積極的なご意見が寄せられた。</p>		<p>今年度中にあと一回運営推進会議を開催予定である。貴重な意見を日々の介護に活かしていきたい。</p>
<p>9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域密着型となった今でも、なかなか市町村との連携が図れないのが現状である。しかし地域密着型となる前よりは質問等しやすい雰囲気となった。</p>		<p>サービスの質の向上のためにも、当ホームから積極的に働きかけていくようにしたい。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地元主催による平成19年度の権利擁護事業に関する研修会に出席。当ホームより二名が出席したが、全職員への説明会は実施していないのが現状である。</p>		<p>現状では対応が必要と思われる入居者はいないが、対象者が出た時にスムーズに支援に結び付けられるよう、日頃より学ぶ機会を設けていく。</p>
<p>11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月に一度開催される全体会議等を利用して話し合いの機会を設けている。</p>		<p>今後も、入居者のみなさまに安全で快適な生活を送っていただけますよう、常にサービスのあり方を見直す機会を設けていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明はもちろんのこと、契約を結ぶ前に3～7日間の体験入居期間を設け、十分に納得をしていただいてから契約を結ぶようにしている。また、契約解除の際も十分に話し合う時間を設け、納得のいく退居先に移っていただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者が職員に対していつでも話しかけやすい状態でいられるよう努めている。また入居者より寄せられた意見等は毎朝のミーティング時や申し送りノートを利用し、運営に反映できるようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の利用料請求時に、行事の写真を添えた「身体状況のお知らせ」を送付している。その中には連絡覧が設けてあり、一枚で個々の1ヶ月の様子が報告できるようになっている。都合でなかなか面会に訪れることのできないご家族には好評をいただいている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居契約書に苦情相談窓口を明記しており、契約時に口頭にて説明している。玄関には意見箱を設置している。寄せられた意見等は全職員で話し合い、運営に反映できるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度開催される全体会議等を利用して話し合いの機会を設けている。出席した職員全員から意見を出してもらうようにしている。時には意見がぶつかることもあるが、良い方向にもっていけるよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中は、規定によると9名の入居者に対して3名のスタッフでよいのだが、4～5名のスタッフで対応している。(管理者・計画作成担当も含む)管理者・計画作成担当もシフトに入ることにより、より具体的な状況が把握できるため、ケアプランに反映できる。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮はしているが、離職が多いのが現状である。だが、新しい職員に対しての指導を徹底し、入居者にとって、少しでもはやく馴染の顔となれるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各方面より研修案内が多数よせられる。それらを検討し、現状にあった研修をセレクトしたうえで受けさせている。研修を受けた職員は全体会議を通して全職員に周知し、質の向上に努めている。</p>	<p>今後も、少しでも多くの職員に研修を受けさせ、全員で質の向上に努めていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>平成19年10月19日に秩父群市地域密着型サービス事業者連絡協議会が設立された。当ホームも設立に賛同し設立準備会にも参加した。</p>	<p>今後もこの協議会がさらなる発展をとげるよう、当ホームも運営に協力していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>昼休憩を別棟にて1時間もうけ、ゆっくりとくつろいだり、また、別ユニットの職員とも情報交換ができるようにしている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日頃より、運営者と管理者、職員がコミュニケーションを密にし、気持ち良く業務に従事できるよう努めている。シフトの関係上全員参加は無理だが、慰労を兼ねた食事会等も実施している。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>3～7日間の体験入居期間中にじっくりと話し合い、ふれあい、言葉で言い表せなくても把握できるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族が納得のいくまで何度でも話し合いの機会を設け、ご家族の要望が満たされるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービス利用が必要な場合、スムーズに紹介できるよう、日頃より地域のサービス事業者との連携を密にしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずは見学時に他入居者と食事をする機会を設けたり、行事に参加していただいたり等しながら、ホームの雰囲気を味わっていただいている。時にはご家族に泊まっていたこともあります。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>元お花やお茶の先生だった入居者には活け花を教えていただいたり、お茶をたてていただいたりしている。また、昔から伝わる季節の行事食や郷土食を教わりながら作ったりしている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事に参加していただいたり、面会時には一緒に食事をしていただきながら、入居者、職員とふれあう機会を多く持ち、日頃のホーム様子を把握していただいている。中には、ほぼ毎日面会に訪れるご家族もおります。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会時には居室にてゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。また、遠方にお住まいのご家族には、行事の写真に本人の手紙(代筆の場合も有り。)を添えて元気な様子を伝えるようにしている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>手紙のやりとりや電話利用の援助、また、行きつけの店舗への買い物援助や、かかりつけ医への受診援助等行っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>日中は居室で過ごされる入居者はほとんどいない。みなさんホールで過ごされ、お互い助け合って生活している。家事仕事の取り合い等でぶつかり合うこともあるが、スタッフが間に入り中を取りもっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されてからも、ご家族から毎年年賀状をいただいたり、こちらからも出したりしている。退所後の様子もわかりうれしく思う。また、亡くなられた入居者の法要に呼んでいただいたということもある。良い施設だったからと、新しい入居者を紹介していただいたケースもある。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活歴から得意分野を見つけ出し、無理のない役割分担を決め、毎日がはりあいのある生活となるよう努めている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用事業所から情報を提供していただいたり、過去の生活背景を十分に理解し援助できるよう努めている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基本的には自由にゆったりと過ごしていただいている。予定を立てるとしても詰め込み過ぎないよう、一人ひとりの力量にあわせたプランを立てるように努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたっては、サービス担当者会議を開催し、十分話し合ったうえで作成している。作成したものをご家族で検討していただき、要望等があった場合は再度作成し直し、納得のいくプラン作りを心掛けている。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	当ホームでは基本的には介護保険の更新に合わせて見直しを行っている。しかし変化が生じた場合は、その都度、本人、ご家族、必要な関係者でサービス担当者会議を開催し、現状に適した介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は個別に「実施記録」「介護計画実施状況記録」「業務日誌」等に記載し、全職員で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は認知症対応型共同生活介護のみを運営している。しかし本人、ご家族の要望に応じた支援は十分できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて協力していただける態勢はできている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向により、居宅療養管理指導のサービスを利用している入居者が3名おります。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在は協働している例はない。しかし、運営推進委員となっただいているため、定期的な顔合わせはできている。		今後必要に応じては協働していく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医はいるが、かかりつけ医の受診継続を希望される場合は希望に添うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域で唯一の認知症専門医の受診を月に1度実施している。必要に応じては受診時にご家族に同行していただいたり、職員も気軽に相談出来る関係が築かれている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	基本的にはかかりつけ医の受診継続を実施しているため、入居者をよく知る看護師に日頃よりお世話になっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医から紹介を受けた病院に入院するケースが多いため、情報交換しやすい環境である。かりに救急車で搬送された場合でも、管理者、計画作成担当が搬送先の病院を定期的に訪れ、病院関係者と情報交換するよう努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は十分話し合ったうえで入院となるケースが主である。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアを実施したケースは今のところない。しかし、今後のために、かかりつけ医やご家族と十分な話し合いは日頃から実施している。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までに住み替えのケースは数例あった。理由は様々であるが、どの場合でも関係者で十分な話し合いをし、ダメージは最小限となるよう努めた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりの生活背景を理解し、人格を尊重した言葉かけやケアの実施を心掛けている。個人情報の取り扱いには十分注意をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>毎朝の着替えをはじめ、入浴の準備、必要な物品等入居者の希望を中心に決めている。決められない時などは一緒に決めたり、アドバイスをしたりして少しでも本人の意思が出るよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的には入居者一人ひとりが自由にゆったりと過ごせるよう支援している。特に決まったスケジュールはない。何をやったらよいかわからない入居者には、興味のありそうなものを勧めている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>3ヶ月ごとに訪問美容室が来訪している。また、行きつけの美容院を利用している入居者もいる。カラーリングは好みの色に職員が仕上げるようにしている。化粧やネイルは面会時にご家族が施す入居者もいる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>全職員が交代でメニュー作成をしている。作成する際は入居者の好みを聞くようにしている。好みに合わないときは個人的に代替えを提供。入居者、職員で準備や片付けはしているが、一緒に食事はいつものところ毎週日曜日の昼食のみとしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、たばこを嗜む入居者はいない。おやつはみんなの好きな物を用意し提供している。おやつの時間をなにより楽しみにされている入居者が多い。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>入居者一人ひとりに合わせたりハビリパンツ、尿取りパットの使い方をしている。排便、排尿チェックをし、間隔に注意している。浣腸や薬の服用は最終手段とし、水分チェックや繊維質の多い食材の提供で自然な排便を心掛けている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日曜日以外毎日、午前と午後実施。一応順番は決めているが、無理強いはいないように心掛けている。体調は考慮しているが、入浴時間シャワー浴等自由になっている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医の指示で眠剤を服用している入居者あり。休息の時間によっては食事時間がみんなとズレてしまう入居者もいるが、個人のペースを尊重している。昼夜逆転となっているケースはない。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴から活動できそうなものを見だし、張り合いを持って打ち込めるよう支援している。またその活躍が自信へとつながるよう見守っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはホームで立て替えという形で管理している。以前は個別に所持していたこともあるが、しまい無くしや盗まれた等のトラブルが絶えなかった。買い物に行くときは必要な額のみ個別の財布に入れて持たせ、自分で支払うようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、近隣の散歩、庭の散歩、1Fとの交流等、一人ひとりの希望にそった外出の支援をしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>お墓参りや親戚宅への訪問等、個別の外出希望が叶えられるよう、職員、ご家族で支援している。また、お花見やお祭りなど、その時期しか楽しめない行事にも積極的に 外出の支援をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が見守りながら自由に実施している。手紙の時は行事の写真などを同封するよう心掛けている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室にてゆっくりと過ごしていただけますよう、来客時にはイスとテーブルを用意し、お茶とお茶菓子をお出ししている。また、昼食時間と重なった場合には、同じ昼食の提供も可能である。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃から全職員で身体拘束をしない介護について話し合い、実行している。		月に一度開催している全体会議を通して、身体拘束をしない介護について話し合う機会をもうけていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は門と玄関は開放し自由に出入りできるようにしている。グループホームの前はホテルだった建物で、2Fには急な外階段が2カ所付いている。高齢者の利用は危険が伴うため、施錠やついたてで利用できないようにしてある。エレベーターは自由に利用できるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全職員が常にプライバシーに配慮し、安全に注意しながら支援している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は管理棟の施錠できる事務室で保管し、一日分のみ施設の事務室で管理している。包丁などがあるキッチン、夜間ブラインドを下げて目立たないようにしている。洗剤類の在庫は物置で保管。今のところ、異食行為がある入居者はいない。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事務所内に急変時対応マニュアル本が用意しており、全職員がいつでも見られるようにしてある。行方不明、火災等は全職員が起こさない、起きないように注意している。自衛消防隊の組織図が作成しており、事務所内に掲示してある。ヒヤリハットが出た場合は全職員が目を通しサインし、検討、再発防止に努めている。		今後も地域主催の防災訓練に積極的に参加したり、地域や消防署で主催する救命救急講習会等に参加し知識を学ぶようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が簡易マニュアルを持っている。また、事務所内に急変時対応マニュアル本が用意してある。各自で読み込みの徹底をしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域主催の防災訓練に参加し、避難場所の確認、協力等再確認できている。		今後も地域主催の防災訓練に積極的に参加し、その都度再確認していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時や契約後も話し合いの機会を設け、どんな時でも自由でかつ安全な生活が継続できるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見を心掛け、速やかな情報の共有を徹底しスムーズな対応ができるよう努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には管理者が薬の管理をしている。個人ファイルに個々が服用している薬の説明書が綴じてあり、全職員がいつでも見られるようにしてある。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	かかりつけ医の指示で便秘薬を服用している入居あり。浣腸や下剤は最終手段とし、繊維質の多い食材の提供や水分補給に注意している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯みがきや義歯洗浄を徹底している。義歯の使用者は夜間は外して義歯洗浄剤につけ込むように徹底している。仕上げみがきや全介助の場合もある。歯科医への定期受診も実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、水分量を記録している。体調、歯の状態等に合わせ、普通食、きざみ食、お粥等を提供している。また、嫌いな物のは代替え品を提供し、おいしく楽しい食事を心掛けている。(現在はカロリー制限のある入居者はいないが、おおよそのカロリー計算はしている。)		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年職員、入居者とも実施している。その他の感染症に関しては、保健センターよりマニュアルを取り寄せ全職員で共有できている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板は毎日消毒している。食材は担当者が決めてあり、注文から在庫の管理まで徹底して行っている。キッチンにはスプレー式の消毒剤が常備されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りや建物の周辺には花壇や植木を置き、季節感が感じられるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年度、トイレのドアをアコーディオン式から木製の3枚式の引き戸に替えた。それにより、より家庭的な雰囲気となり、またプライバシーも守れるようになった。浴室やトイレの場所がわかるよう、目印も入居者の目線に合わせて設置している。カレンダーも季節感が感じられるような貼り絵や絵を施し手作りの物を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭や玄関先、ベランダ等にベンチや椅子、ソファが置いてあり、いつでも気のあった入居者同士が自由に座って話したり、日向ぼっこ、うたた寝ができるようにしている。ホールのメインテーブルはこたつになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れた家具や布団を自由に持ち込んでいただき、一人ひとりが自由な居室作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールと各居室に温・湿度計を設置し、エアコン、加湿器等をこまめに調節している。また、換気扇は常時可動させ、においや空気のおどみをなくすよう心掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さや椅子、テーブルの高さは利用しやすいように設定している。要所要所には手摺りやスロープを設置している。2カ所の階段が急で危険なため、エレベーターが設置してある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはネームプレートの他、好みの色や模様の暖簾と写真を吊して目印にしている。また、トイレや浴室には、わかりやすい目印を入居者の目線に合わせ表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や植木を置き、入居者が自由に水くれ等の世話ができるようになっている。猫を飼っており、1F、2F自由に行き来して入居者みんなでかわいがっている。ベンチや椅子は所々に設置してある。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年度、2Fでは入居者の入れ替えが大幅に行われました。4月から12月にかけて5名の新しい入居者を迎え、2Fの開所から4年目に新たな一歩をふみだしました。開所当初はまだまだグループホームの知名度は低く、特別養護老人ホームが空くまでの間の入居が主でした。そんな感じの入居でしたから、本来のグループホームの姿からはかけ離れたものだったように思えます。御家族も「ただただどこかに預けられればいい。」と願うことが強く、入居が決まれば面会は遠のいてしまう感がありました。開所し3年ほど経過するとテレビ等でも認知症を取り上げることが多くなり、グループホームの知名度も少しずつ広がってきました。そうなりますと、入居相談の内容も以前と違い御家族が真剣に認知症で悩み、グループホームの存在をインターネット等で調べ、納得されたからの相談が多くなってきました。そんな中、今年度は入院や特養への転移が相次ぎ、新しく5名の入居者を迎えることとなったわけです。どの御家族もグループホームを良く知ったうえでの希望でした。契約を交わすまでには納得の行くまで何回も足を運んでくださり、色々情報交換ができました。入居されてからも面会の回数が多く、毎日来訪される方もおります。御家族が他入居者とも顔みしりになり、入居者の方も「だれだれの娘さんが来ました。」とちゃんと覚えていて教えてくださるほどの良い刺激となっております。どの職員も外からの目が多くなりましたので、いつ見られても介護に自信が持てるように成長してきたと思います。ケアプランに対しても、十分に目を通していただいているようで、指摘を受けることも多く、要望等も沢山出していただけます。昼食時に訪れられた時などは一緒に召し上がっていただき、食事に対しても意見をいただいております。今年度からは、職員、入居者、御家族で手を取り合い「納得のいく本来のグループホームを一緒に作りあげているんだ。」と感じております。